【成果報告書１：海洋教育のデザイン】

１．学校名　　千葉県市川市立南新浜小学校

２．テーマ名　　海とつながるわたしたち

３．実施の概要・ねらい

（１）概要

本校は，本校の地区は「三番瀬のある東京湾」「行徳鳥獣保護区」に隣接しており，海洋環境と深いかかわりを持った地区である。海洋教育を推進するにあたり，今年度は４年生の総合的な学習の時間において，干潟の観察や東京湾クルージングなどの体験活動とそれに基づいた調べ学習・外部講師による干潟についての授業等を通して，海と自分たちの生活のかかわりや海洋環境を守っていくために必要なことを考えさせた。

（２）実施のねらい

学区にほぼ隣接する東京湾の干潟を素材とし，海と自分たちのつながりの深さを実感的に理解できる学習や海・干潟について主体的に調べ学習を行わせることで問題解決に取り組む力を高め，自分たちの地元市川に誇りや愛着を持たせる。

４．実施計画

（１）　海と自分たちのかかわりを振り返ろう（３時間）

〇学校周辺の航空写真や行徳湿地の写真を見て南新浜小がどういう場所にあるか考える。

〇市川市の位置について３年の時の学習を振り返りながら考える。

（２）干潟について調べよう（計３７時間）

①干潟ってどんなところ？（１時間）

②干潟の生き物について調べる①（５時間）

＜テーマ例＞

・干潟の生き物図鑑　・干潟のカニ　・トビハゼ図鑑　・干潟の二枚貝

③干潟に行ってみよう（４時間）

・行徳鳥獣保護区内の干潟の生き物を観察する。（行徳野鳥観察舎友の会のインストラクター３名の方々の指導のもと，保護区内の生き物の観察を行った。）

④干潟観察会でわかったことをまとめる（２時間）

・ミニ新聞づくり

⑤干潟の生き物について調べる②（５時間）

⑥東京湾に出て三番瀬を見てみよう（４時間）

・船で東京湾内をクルージングして，海について感じたこと，これから調べてみたくなったこと，干潟のつながりなどについて考える。

⑦干潟についてもっと知ろう１－行徳の干潟（４時間）（ゲストティーチャー　風呂田利夫先生）

⑧干潟についてもっと知ろう２－干潟の役割　他（４時間）（ゲストティーチャー　葛西臨海水族園の方々３名

⑨「海とつながるわたしたち」の学習のまとめをしよう（８時間）（１月以降）

５．今年度の実践

①計画からの追加・変更店

・海苔漉き体験の実施

３・４年生対象に，行徳漁協から講師を招き，三番瀬で収穫された海苔を用いて海苔漉き体験を実施した・

②実践の成果

＜海洋教育の改善の視点から＞

今年度から海洋教育に取り組んだが，学習素材を近隣の干潟に焦点化して体験活動を行ったことで，海のそばで自分たちが生活していること，多様な生き物が身近なところで生息していることを実感的に理解させることができた。また，専門家の指導で，干潟の海における役割を学習することで，海洋環境の保全が重要あることを理解させることができた。

＜児童生徒の変容の視点から＞

本校の４年生の子どもたちは生き物についての興味関心が非常に高く，干潟の生き物を実際に見たり，図鑑で調べたりする活動を通して，海の生き物に対する興味関心が大いに高まった。また，干潟を中心とする海の生き物の調べ学習を通して，図書資料やインターネットから得られる情報を自分の言葉で再構成して書き表すことができるようになってきた。意味や読みが分からない言葉や漢字についても自主的に調べる姿も見られるようになり，自学の進め方のスキルが向上してきている。

＜教職員や保護者の変容や地域との連携の視点から＞

南新浜小学校は行徳鳥獣保護区に隣接している小学校であるが，今まで，実際にそこへ足を運んで調査することは皆無であった。職員が子どもたちと共に体験し学ぶことで，学習素材としての干潟の有効性を実感し，今後も調査・教材開発していこうという意欲が大いに高まった。

これから，学習のまとめに入るが，子どもたちが感じたことを新聞やレポートなどにまとめ，地域やお世話になった方々へ発信していく予定である。そのことにより，海洋環境への理解や保全意識が高まることを期待したい。

③次年度への課題

・実際に海や干潟の生き物に触れることで児童の興味関心を高めることができたが，海の環境保全へ意識を高めていくためには，体験活動以外に自分たちの生活と海を結び付けていくための専門的な知識も与えていくことが必要である。そのためには，下水終末処理場や漁業協同組合の職員の方々などの外部講師による授業を行う必要があることがわかった。

・今年度は経済的な支援を受け可能となった活動が多かった。学校独自で海洋教育を進めるにあたって，諸費用をどのような形で準備していくかが今後の課題である。

＜今後に向けた改善や展望＞

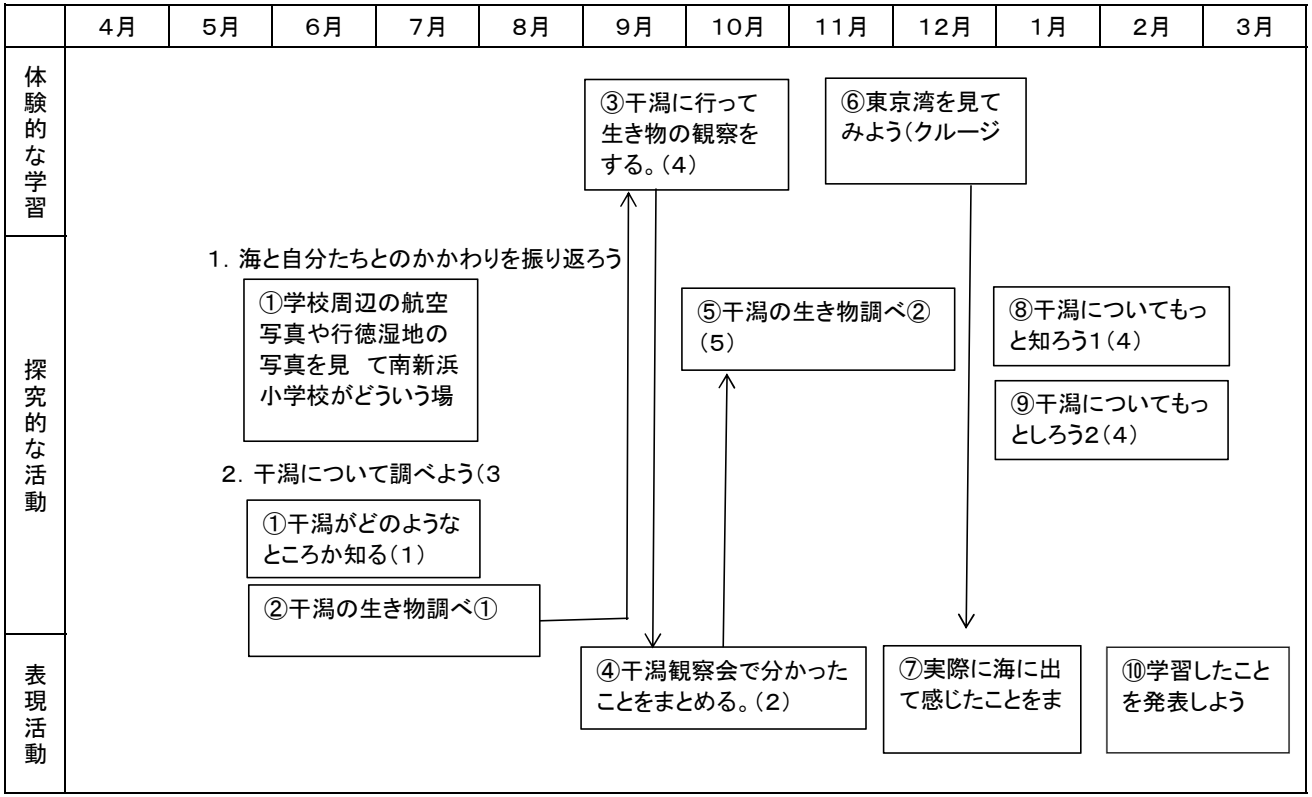
来年度以降も地の利を生かした体験活動を中心に，総合的な学習の時間の授業を充実させていきたい。そのためには，学校独自の具体的な全体計画・年間計画を作成し，各学年の各教科領域における海洋にかかわる学習を横断的に行っていくことが成果を大きくしていくために重要であると考える。

また，１学期は運動会や宿泊学習などの諸行事の計画準備のため中心的な学習の開始が２学期にずれ込んでしまった経緯があった。今年度の実践を振り返り，来年度は年度当初から計画的に学習が進められるよう，各計画の作成や外部講師の手配を早めに行っていきたいと考える。

成果報告書2：海洋教育のストーリーマップ

４年生「海とつながるわたしたち」

【実践のねらい】
学区にほぼ隣接する東京湾の干潟を素材とし，海と自分たちのつながりの深さを実感的に理解できる学習や，海・干潟について主体的に調べ学習を行わせることで問題解決に取り組む力を高め，自分たちの地元市川に誇りや愛着を持たせる。

〇時数　５月～２月　　４０時間（総合的な学習の時間）

〇目標　（1）市川市の様子や海と自分たちのかかわりを振り返る学習を通して，海が身近にあるものだということを実感することができる。
（2）海や干潟に行って実際に様子を見たり，干潟の生き物に触れる体験を通して，海や干潟，干潟の生き物への興味・関心を高めることができる。
（3）干潟や海の観察を通して興味を持ったことについて調べ，知識理解を深めるとともに，自分たちがこれから海とどのように関わっていったらよいか考えることができる。